

南阿蘇鉄道沿線地域公共交通計画 令和3年度改訂概要

改訂のポイント

- 計画の基本方針や目標達成に向けた考え方は、従来の「南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画」のものを継承する。
- 平成30年以降の取組状況や社会情勢の変化を踏まえて評価指標項目を見直し、計画目標の達成に向けて各種取組の内容を見直す。（従来からの評価指標に係る目標値は、従来計画のものを継承する。）
- 令和2年に施行された改正法（地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号））に適合するよう、記載内容を見直す。

考慮すべき変化

交通ネットワークの変化

平成28年熊本地震からのインフラ復旧が進み、交通ネットワークが変化している。



社会情勢の変化

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」及び「災害の激甚化・頻発化」といった危機による変化と課題への対応方向として、「豊かな未来」の姿が示された。



沿線地域の変化

高森町・南阿蘇村においては、人口減少対策を講じているものの、推計よりも早い速度で人口減少が進んでいる。



図 2 町村の2020年総人口の推計値と実績値（速報値）

計画取組状況の評価

計画に基づいた取組の効果を評価指標を基に検証した結果、概ね目標達成に向けて効果的な取組が実施できているものと評価。

計画目標	評価指標	計画策定時現況地	第1期目標値	中間評価指標	結果
南阿蘇鉄道の創造的復興	年間営業収入	1,461万円 (H28)	5千万円以上	2,877万円 (R1)	B評価
	年間輸送人員	36,670人 (H28)	7.5万人以上	55,875人 (R1)	B評価
	観光入込客数に占める南鉄利用者の割合	0.9% (H28)	1.2%以上	1.3% (R1)	A評価
地域住民の生活を支える公共交通網の形成	公共交通空白地の総人口割合	11.2% (H29)	0%	5.2%	B評価
	公共交通の住民の利用者数（ゆるっとバスと高森町民バスの1便あたり利用者数）	6路線中7路線で2人/便以上 (H29)	2人/便以上 (全路線で)	6路線中7路線で2人/便以上 (R2)	C評価
基幹産業（観光業）を支える公共交通網の形成	地域観光入込客数	350万人 (H28)	650万人以上	422万人 (R1)	B評価
	観光客に占める公共交通利用者の割合	1.2% (H29)	1.2%以上	2.2%	A評価
南鉄・公共交通網を持続可能なものとする地域体制の構築	南鉄駅を活用した地域の取組数	-	12回/年以上	27回/年 (R2)	A評価
	南鉄の必要性を感じる住民の割合	86.9% (H29)	90%以上	未計測	

主な変更点

- 各種統計データを最新版のものに更新
- 高森町及び南阿蘇村で策定している上位計画の改訂を反映 〈P4, P65～70〉
- 道路・交通インフラや宿泊施設等の復旧状況を反映 〈P9, P19, P22, P30～31 他〉
- 南阿蘇鉄道沿線地域における社会経済の循環構造分析結果を追加 〈P17〉
- 公共交通以外のその他輸送資源（スクールバス、福祉・医療・宿泊施設等の送迎サービス等）についての記載を追加 〈P35～37〉
- 平成30年度～令和2年度における計画に基づいた取組の評価を追加 〈P58～61〉
- 計画目標の評価指標に「南阿蘇鉄道の営業収支率」を追加 〈P102～105〉
- 目標を達成するために行う取組内容の見直し及び実施主体の明確化 〈P107～122〉

直近の社会変化の潮流を踏まえ、引き続き南阿蘇鉄道を軸とした持続可能な公共交通網の構築を目指す